

## 《第1部》 実績報告・業績予想編

### 平成 21 年 12 月期第2四半期決算説明会

1. 実施日： 8月3日(月)15:00~16:30
2. 会場： 東証ホール
3. 内容： 《第1部》 実績報告・業績予想編
4. 説明者： 代表取締役社長 今井 明夫

~~~~~

#### 《実績報告》

本日は、お忙しいところ、ロイヤルホールディングス株式会社の平成 21 年 12 月期 第2四半期決算説明会にお越し頂きまして、誠にありがとうございます。

お手元の決算説明会資料に基づき説明をさせていただきます。どうか宜しくお願い致します。

#### [平成 21 年 12 月期第2四半期決算 連結業績]

先ず初めに、平成 21 年 12 月期 第2四半期決算の連結業績につきご説明致します。

第2四半期連結累計期間におきましては、昨年来の世界経済の落ち込みは、一部下げ止まりの動きが見られてはおりますが、企業収益の悪化による雇用不安や所得減少懸念は継続しており、個人消費が引き続き低迷するなど、当社グループを取り巻く事業環境は引き続き厳しいものとなっております。

連結売上高は 548 億 48 百万円と、前年同期に比べますと 32 億 5 百万円減少し、2 期連続の減収となっております。

また、営業利益は 38 百万円で前年同期と比べて 1 億 47 百万円減少、経常利益は 1 億 50 百万円と前年同期に比べて 1 億 41 百万円の減少となり、何れも 2 期連続の減益となっております。

また、閉鎖を予定していた店舗の一部につきましては、賃貸借契約条件の変更等により店舗営業が継続されることになるなど、店舗閉鎖損失引当金の取崩し 8 億 41 百万円を特別利益に計上しました。

その一方で、投資有価証券についての時価の下落による評価損 4 億円などを特別損失に計上致しております。

その結果、四半期純利益は前年同期を 4 億 71 百万円上回る 2 億 6 百万円の純損失となりました。

#### [セグメント別 売上高・営業利益]

次にセグメント別の業績につきご説明を致します。7 ページは全体感をまとめた表を掲載しておりますが、お手元の資料の 8 ページから 11 ページを使いまして、各事業セグメントの業績として、前年同期比較についてご説明を致します。

## 《第1部》 実績報告・業績予想編

### 〔外食事業〕

先ず初めに外食事業ですが、売上高につきましては、ロイヤルホストで 25 億 77 百万円、てんやで 94 百万円、その他の外食事業で 7 億 8 百万円の減収となりました。

これは、景気悪化により消費者の外食を控える傾向が依然として強かったこと、また消費が低価格志向となっていることの影響を受けて、既存店の来客数及び客単価が低下したことによるものです。

また上半期中に閉鎖した 39 店舗の影響も受けております。

営業利益に関しましては、売上規模が大きく減少したロイヤルホストで 2 億 78 百万円の減益となりましたが、てんやでは 20 百万円、その他の外食事業では 3 億 53 百万円の増益となりました。

その要因としては、高速道路内サービスエリアの店舗やシェーキーズなどの業態が好調であったほか、KRA 手法の定着や分社再編・業務統合などによるコストダウン、そして不採算店舗対策の効果が徐々に出てきていることにより、一部の業態を除き増益となったこと、平成 20 年 12 月期決算でのれんの一部を減損処理したことに伴い当期の償却負担が軽減されていることなどが挙げられます。

また、間接部門でもシステム関連費用の抑制など経費削減を推進したことによる 2 億 39 百万円の増益効果もあり、外食事業全体として 3 億 34 百万円の増益となりました。

### 〔食品事業〕

次に、食品事業の業績につきご説明を致します。

食品事業は、新規顧客の開拓など販路の拡大に努めて参りましたが、景気悪化の影響によりカフェチェーンやファミリーレストランチェーン向けの製造・出荷が伸び悩み、外部売上高は 40 百万円の減少となりました。

これにともない、営業利益につきましては、22 百万円減少しております。

### 〔機内食事業〕

次に、機内食事業の業績につきご説明を致します。

昨年 7 月に M&A により福岡空港における機内食事業会社 1 社を子会社化したことなどにより、当期におきましては 3 億 53 百万円の増収要因がありました。

しかしながら、航空会社が合理化を進めたことによる就航便数の減少、そして出張抑制や新型インフルエンザなどの影響を受けて搭乗率が低下したことなどにより、既存の事業では 7 億 2 百万円の減収となり、全体では 3 億 49 百万円の減収となりました。

それにともない、営業利益も 2 億 39 百万円減少致しております。

### 〔ホテル事業〕

ホテル事業では、今年の 5 店に続き上期 2 店、下期も 7 月 1 日に 1 店、12 月初旬に 1 店と、

## 《第1部》 実績報告・業績予想編

一昨年来取り組んでおりますリッチモンドホテルの積極出店を継続しており、上半期では8億5百万円の増収効果がありました。

しかし、景気悪化の影響で出張抑制が広がったことなどにより、ホテル稼働率は伸び悩み客室単価も低下しております。

このため既存店で2億43百万円の減収となり、全体では5億62百万円の増収となりました。

また、当期発生したホテル開業費用や既存店の内装グレードアップなどに係る費用1億71百万円などの負担を吸収することが出来ず、ホテル事業全体としては、2億45百万円の減益となっております。

### 《業績予想》

#### 〔業績予想の前提〕

最後に、平成21年の通期業績予想について説明させていただきます。

事業環境につきましては、景気回復の動向が不透明なことから、個人消費や法人需要は引き続き低迷することが予想されます。

また、昨今の個人消費動向に対応すべく低価格化を推し進める企業が相次ぎ、企業間競争はますます厳しくなるものと想定しております。

尚、各事業セグメントの前提はご覧の通りとなっておりますので、ご参照ください。

#### 〔平成21年12月期 連結業績予想〕

12ページに掲載しております前提に基づき平成21年12月期の業績予想を見直しましたが、連結業績に関しましては2月13日に公表した予想を変更致しておりません。

第2四半期連結累計期間実績では売上高も各利益も期初公表予想を上回ったものの、第3四半期以降の環境悪化要因を加味すると通期業績と致しましては期初に予想した水準程度になるものと見ております。

#### 〔セグメント別 売上高・営業利益予想〕

ただし、事業セグメント別の予想は14ページの通り変更が生じております。

外食事業全体では、第2四半期連結累計期間実績は期初予想を上回ることが出来ました。しかし、消費者の低価格志向の強まりと競争の激化により事業環境が悪化することが予想されるため、通期の売上高は期初予想を12億円上回る911億円、営業利益は期初予想を5億10百万円上回る14億円になるものと、予想を変更致しております。

食品事業につきましては、外部向けの売上高を37億円に据え置き、営業利益は期初予想を20百万円上回る4億円に予想を変更しましたが、トレンドは上半期と大きくは変わってはおりません。

## 《第1部》 実績報告・業績予想編

機内食事業については、航空会社の合理化努力が継続する上に搭乗客数動向が反転する兆しは見えず、売上高は期初予想に比べて3億円下回る 54 億円、営業利益は 30 百万円下回る5億 50 百万円を予想しております。

ホテル事業につきましては、上半期に見られた客室稼働率と客室単価の低下トレンドが継続すると想定し、売上高は期初予想に比べて9億円下回る 118 億円、営業利益は5億円下回る3億円を予想致しております。

以上で、平成 21 年第 2 四半期決算発表に関する説明を終了させていただきます。

この半年間を振り返ってみた場合、この経済状況の中で、中期経営計画で定めた重点施策はある程度実現出来たと考えております。

しかし、売上の減少については、真剣な対応が必要だと考えております。

事業の三本柱の中で、ホテル事業と機内食事業は、景気の回復と共にある程度売上の回復が見込めるのではないかと考えておりますが、もう一本の柱である外食事業、特にロイヤルホストについては、最重点の課題であると考えております。

ロイヤルホストを時代に合わせて評価して頂くことが出来るチェーンとして、進化させて行くことは勿論ですが、ロイヤルホストの進化と共に、新しいお客様にも来て頂ける、新たな外食事業の柱を育てていく必要があると考えております。

M&Aだけではなく、維持・継続させるのが困難にある既存店を再生させ、行く行くは新店の増加に繋がるような飲食事業を出来るだけ早く実現すべく努力しておりますが、当面はこの厳しい経済状況を克服することが課題となっております、その辺どうかご理解を賜りたいと存じます。

この後、事業戦略とロイヤルホストの事業につきまして、担当の者からご説明をさせていただきますので、どうかよろしくお願い致します。

ありがとうございました。

【以上】